

No. 318【2018年8月10日配信】

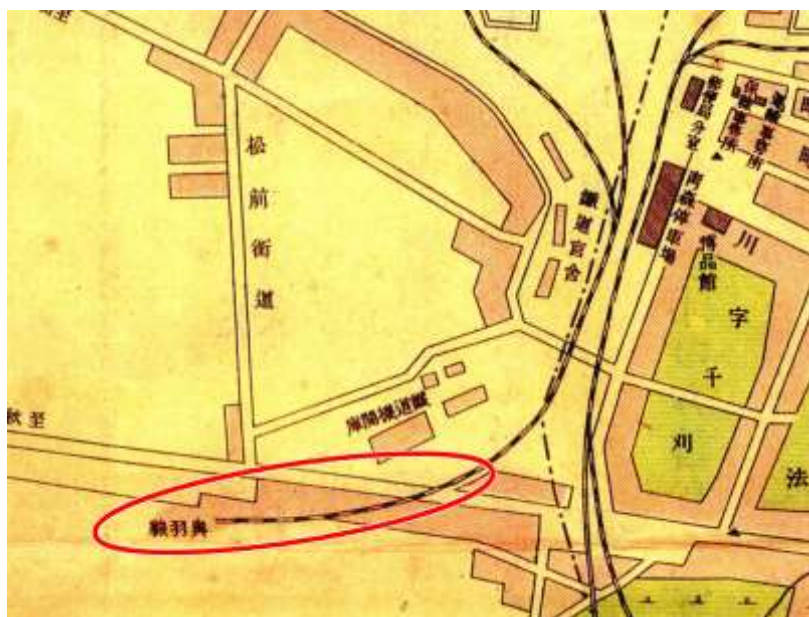
千刈旧線路通り (担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

以前、私の担当回で「旧線路通り」についてお話したことがありました（「あおり歴史トリビア」第107号）。「旧線路通り」は国道4号・7号の南側に位置し、青森駅前から橋本までを結ぶ通りです。この通りは、明治24年（1891）に日本鉄道線（のちの東北本線）の青森－東京間が開通した時に線路が敷かれた場所であり、大正15年（1926）、青森操車場の建設に伴って新しい線路に切り替えられたあと、同年10月に市が払い下げを受け、道路として整備したものです。

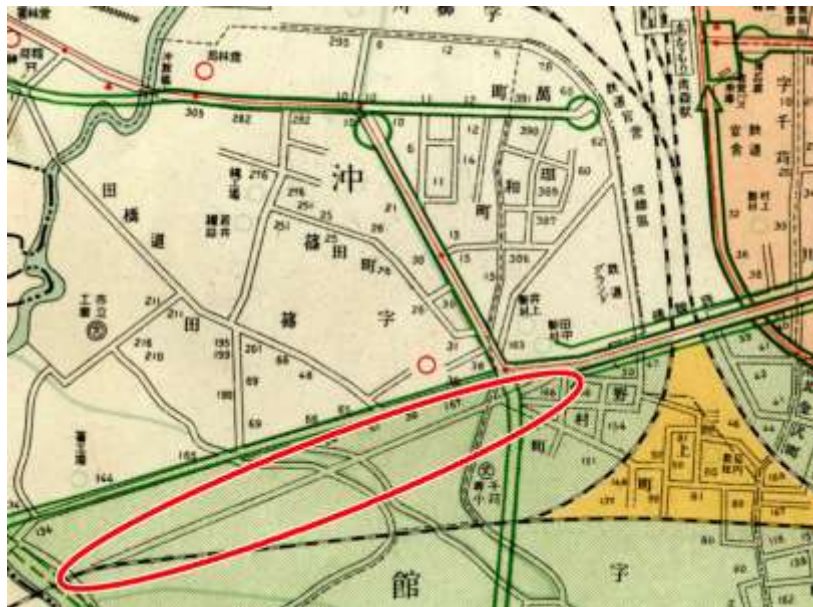
これに対し、奥羽本線にも「旧線路通り」と呼ばれる道があります。その道は国道7号古川跨線橋を東から西へ渡ってすぐ左手にあります。上古川バス停の手前を斜めに入り、西へ500メートルほど進むと千刈2丁目付近で突き当たりとなる道ですが、かつての線路はさらに西へと続き、西滝川の手前で現在の線路と合流していました。『西部六町会連合記念誌「わがまち」』（1999年西部六町会連合記念誌編纂刊行会）によると、この道は「千刈旧線路通り」と呼ばれているそうです。

この通りに線路があったのは、明治27年の青森－弘前間開通から大正15年の青森操車場建設に伴って新しい線路に切り替えられるまでの間です。つまり、青森操車場が建設された時、東北本線だけでなく奥羽本線の線路も新しい線路に切り替えられていたのです。



奥羽線の旧線路
(大正11年発行「実地踏査 青森新市街図」より)

『青森海陸連絡工事概要』（1925年 鉄道省仙台鉄道局）によると、奥羽本線では西滝川附近から青森駅までの線路を南へ移しました。さらに、奥羽本線と東北本線を結ぶ「連絡線」を設け、奥羽本線と「連絡線」との分岐点には信号所（滝内信号場）を設置しています。「連絡線」は千刈小学校附近で奥羽本線から分かれ、浪館通りと交差して、旭町通り附近で東北本線（現青い森鉄道線）と合流しています。



千刈旧線路通り
(昭和 12 年発行「都市計画 青森市街全図」より)

しかし、奥羽本線の線路跡は東北本線とは異なり、すぐに払い下げられたわけではありませんでした。線路が付け替えられたあともしばらくの間、鉄道を所管する鉄道省が線路跡を保有していたのです。この線路跡を道路として払い下げるという話が持ち上がったのは昭和 10 年 (1935) 12 月のことでした (「東奥日報」昭和 10 年 12 月 28 日付)。

「千刈旧線路通り」は東北本線の「旧線路通り」と比べると距離は短いですが、青森操車場の建設に伴う街の変化を今に伝える貴重な道といえるでしょう。